

THE SHOIN TIMES

“ALL JAPAN BRASS SYMPHONY COMPETITION” - Wednesday, January 30, 2019

全日本ブラスシンフォニーコンクール本選出場

吹奏楽部が12月24日、東京の昭和女子大学人見記念講堂で行われた第4回全日本ブラスシンフォニーコンクールの本選に出場しました。この大会は、ブラスバンドに青春をかける学生たちが『自由な音楽の喜びを通じ世界へ羽ばたける場を提供していきたい』という思いから企画され、課題曲にはグレン・ミラーの「茶色の小瓶」という楽曲が選曲されています。自由曲には、幅広く音楽の魅力を感じられ、聴衆が共に心躍動する音楽の楽しさと感動を共有できるようにと、ジャンルは問われていません。自由曲では「Another day of Sun」という楽曲を演奏し、敢闘賞受賞という結果になりました。



本選出場に嬉しさと不安

【部長】2年夏組の阿部さん た。しかし、全員が諦めず夏の予選を通過して、東京で行われる本選に出場できると聞いたときは、嬉しい気持ちと無事に本番を終えられり交じりました。コンクール以外の曲も並行しながらの練習は、予想以上に大変でした。しかし、全員が諦めず練習し続けたことで、何とか曲を仕上げるのができ、本番に臨むことができました。今回のコンクールで学んだことをこれからの練習に生かし、そして夏のコンクールで良い結果を残せるよう、一生懸命練習に励んでいきます。

伸び悩む時期の中でも改善

【副部長】2年夏組の浦野さん ました。しかし、全体のようすこのコンクールはまだ歴史が浅いため、「何をすれば良い結果を残せるか」が把握しきれないため、なかなかレベルが上がらず、伸び悩む時期もありました。しかし、全体の様子を複数の人で見ること、新たな改善点を見つけることができました。そのような練習を重ねていき、無事に良い本番をむかえることができました。



改善点を生かして来年は優勝を

【リーダー】2年月組の若狭さん マンスのことが褒められていました。5年間、樟蔭の吹奏楽部に所属してありますが、今回のような大きな舞台に立てたのは初めてで、本選出場が決まった時はとても嬉しかったです。結果は敢闘賞で残念でしたが、審査員の方から頂いた講評を生かして来年は優勝して欲しいです。それと同時に、音量の変化やテンポ感のことなど、音楽面の改善点も書かれていました。本選に出場したからには優勝を勝ち取りたかったですが、審査員の方から頂いた講評を生かして来年は優勝して欲しいです。



学校法人 樟蔭学園

樟蔭中学校・高等学校